

2021年3月31日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会の代表者による定期会合の開催

企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会（ASBJ）と米国財務会計基準審議会（FASB）の代表者は、2021年3月29日と30日に定期会合を実施しました。この会合は、高品質でグローバルな会計基準の開発へ向けで連携を深めるために、ASBJとFASBが年に2回定期的に行っているもので、今回で29回目となりました。前回と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、ビデオ会議の形式で実施されました。

今回の会合では、ASBJ及びFASBの代表者は、新型コロナウイルス感染症への対応を含む、お互いの活動の最新の状況を確認するとともに、両基準設定主体が共通の関心を有している項目である「のれんの会計処理」、「リースの会計処理」並びに「料金規制対象活動」等について議論を行いました。

ASBJとFASBは、引き続き意見交換を続けていく予定であり、次回の会合は2021年の後半に開催する予定です。

小賀坂敦ASBJ委員長は次のように述べています。

「今回の定期協議も、新型コロナウイルス感染症の影響により、ビデオ会議の形式で実施されることになったが、お互いボードの理解を深められたことを嬉しく思う。2日間にわたり、国際的な議論となっており両ボードの関心の高い「のれんの会計処理」などを含む、幅広い論点について有意義な議論を行うことができた。コロナ禍にあっても、資本市場の透明性を確保するために、グローバルな会計基準の品質の改善に資することが重要であると考えている。」

リチャード・ジョーンズFASB議長は次のように述べています。

「ASBJとFASBの間で継続している協力関係は、相互に関心がある主要な基準設定の問題に関する価値のある洞察を生み出し続けている。このような議論は、世界的なコロナ禍において両ボードが財務報告上の問題を解決するうえで特に重要である。両ボード間のビデオ会議は、のれん、リースその他の財務報告上の問題に関するリサーチの共有を継続することを可能とし、前例のない時代においてそれぞれのボードの関係者及びグローバルな資本市場のニーズに最もよく応える解決策に至る助けとなっている。」

企業会計基準委員会（ASBJ）について

ASBJは、2001年7月に民間部門の機関として設立された。ASBJが開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJは、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJは、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJに関する詳細な情報は、ホームページ (<https://www.asb.or.jp/jp/>) をご参照いただきたい。

米国財務会計基準審議会（FASB）について

FASBは、1973年に設立された、一般に認められた会計原則（GAAP）に従う公開企業、非公開企業及び非営利組織のために財務会計及び財務報告の基準を設定する独立の民間の機関であり、コネチカット州ノーウォークに拠点を置いている。FASBは、米国証券取引委員会（SEC）により、公開企業のための指定された会計基準設定主体として認識されている。FASBの基準は、各州の公認会計士審査会及び米国公認会計士協会（AICPA）を含む、その他の多くの組織により権威のあるものとして認識されている。FASBは、投資家その他の財務報告書の利用者に有用な情報を提供する財務報告を促進することを意図した、透明性があり、誰でも参加できるプロセスを通じて、財務会計の基準を開発し、公表している。米国財務会計財団（FAF）は、FASBの支援及び監督を行う。詳細な情報は、ホームページ (www.fasb.org) をご参照いただきたい。